疫病神☆

ほーき雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
疫病神☆

【Ｎコード】
Ｎ８２８８Ｘ

【作者名】
ほーき雲

【あらすじ】
高校１年生の外辺久は恐ろしい程の不幸体質。さらに疫病神扱いされたり、ヤクザに狙われたり・・・。
そんな中、久のもとに現れたのは、「幸運への道を教える者」だった。

主要登場人物紹介

外辺久（そとべひさし）：この話の主人公。高校1年生。頭も運動神経もそこそこで、彼女（っぽい人）もいるのに何かと不幸で不運な男。さらに時々他人まで巻き込み、疫病神と呼ばれることもあるが、本人は気にせず無視している。

レアライトロード：久のもとに現れた正しい道を教える者と名乗る。しかし、7割方間違っている。通称トリプルR（Ｒａｒｅ　Ｒｉｇｈｔ　Ｒｏａｄ）

物上由衣（ものがみゆい）：前述の久の彼女（っぽい人）。レアライトロードが久と付き合っていると思い込む。久に巻き込まれて悪い目にあうことも少なくないが、それでも久と一緒にいる。

ＹＡＫＵＺＡ♪：時々久を襲うヤクザ組織。♪マークがついてる理由は五武山町の最も不可解な謎。

それ以外にもいろいろ出てきます。

次回から物語のスタートです。

レアライトロード（前書き）

ついにスタートです。

レアライトロード

???「待てーーーーー!!!」

誰が待つものか、お前たちはヤクザだぞ。外辺久は心の中でつぶやいた。

とにかく逃げていた。ヤクザに追われるのは何回目だろう。どうしてここまで運が悪いんだ!?

逃げて逃げて、とある曲がり角を曲がったその時、何者かに狭いところに引きずり込まれた。そのおかげで、久はヤクザから逃げることができた。

???「大丈夫ですか?」

よく見てみると久を引きずり込んだのは久より少し小さい少女だった。

久「大丈夫じゃねーよ。俺はとんでもない不幸体質で、数えきれないほどヤクザに追われているんだ。おまけに・・・。」

久が続きを話そうとした時、謎の少女は口を開いた。

???「そうですか、レアライトロードの血が騒ぎますね。あなたのような不幸体質は私についていくといいですよ。」

久「レアライトロード!?」

レアライトロード「そうです。それは私の名前です。私は不幸な人に『運が良くなる正しい道』を教える者なのです。（稀にね・・・。）」

ちなみに〇の一言は久には聞こえていない。運が良くなるという言葉を開いた瞬間、久の心は高ぶっていた。

久「わかった。俺はあんたについていく。俺は外辺久だ。よろしく。それで、どうするんだ？さっきのヤクザに見つからずに家に帰るには。」

レアライトロード「さっさとここからでてください。今がチャンスです。」

久「今出るしかないのか・・・。わかった。お前もついてきてくれないか？」

レアライトロード「喜んで。」

久「さぁ、出るぞー！」

久は思いきってここから出ようとしたが、すぐに引っ込んでしまった。

久「どういうことだ。ヤクザまだいたぞ。」

レアライトロード「まあ私の言うことは7割方間違ってますからね。」

久「（こいつ使えねぇ・・・。）」

その後、ヤクザがどっか行くのを見てなんとか逃げ出した久。家に着くまでもう少しというところであることに気づいた。

由衣「あっ、久だ～。」

そこには物上由衣の姿。

由衣「もしかして・・・浮気？」

久が隣を見ると、レアライトロードがいた。

レアライトロード「あなたの運がよくなるようについてきました。しかもあなたがついてきてくれって言いましたもんね。」

由衣「私を嫌いになったりしないで～！」

久「いやいや、そこまで言ってないし！！」

そういうことがありながら、久はなんとか家にたどり着いた。

久「家にまで来るの？」

レアライトロード「居候（いそうろう）させていただきます。」

久の母「いいけど？」

いいのかよ・・・。

久のひとりごとは誰にも聞こえていなかった・・・。

レアライトロード（後書き）

久の母親よく居候を認めたな・・・。

ライブラリ（前書き）

レアライトロードは久の家に居候することになった。そして、珍しいことに（？）、久はその後何の不幸もなく翌日を迎えたのだった。

ライブラリ

久「ところで、ここにいてどうするつもり？」

レアライトロード「狭い場所で何もしない生活続きだったからなぁ。特にすることなんて・・・。」

久「一体どのくらいあの場所にいたの？」

レアライトロード「ざっと3年ぐらいかな。」

こいつすげぇ。と久は思っていた。

レアライトロード「そうそう、することといえば久に好運の道を教えること。」

久「もうそれだけはやめてください。お願いします。」

そこで、久はふと気づいた。

久「気づいたんだけど、なんで7割方間違っているってわかっているのになぜその役を続けるの？」

レアライトロード「どんな世界にも不幸体質っているから。ほら、アニメだか漫画だかのキャラクターでとんでもない不幸体質の人っている？そういうアニメとかの世界にも不幸体質っているんだよ。」

久はああ、あれとか。って考えていた。そいつと俺は同類なんだろうか？久は頭の中で思い浮かべた。

もう会話に飽きたのか、レアライトロードは窓から外を見ていた。

レアライトロード「いい景色だね。道の世界ではこんな景色見られないからね。」

久「未知の世界？どういうこと？」

レアライトロード「未知の世界じゃなくて、道の世界。ＲＯＡＤ教、ＲＯＡＤ術の世界。道の世界では、ＲＯＡＤ教という宗教のようなものが流行っていた。それを実現しようとした人が作り出した力。それがＲＯＡＤ術。」

久「それで、ＲＯＡＤ術というのはどんなのなんだ？」

レアライトロード「あらゆる『道』を読み取るんだ。それは、歩く場所という意味の道の他にも、方法、手段、生き方などの意味も含んで。でも、それが失敗しちゃったんだ。正確性に欠けていたんだよ。」

久「ということは、おまえが昨日使ったのはそのＲＯＡＤ術だったんだな。」

レアライトロード「そういうこと・・・・・あ！図書館（ライブラリ）だ！」

その一言を言った後、レアライトロードは家から出ていった。

久「おい！どうした！？」

久はレアライトロードを追いかけていく。

外に出てみると。またなんか怪しそうなのがレアライトロードと話してた。その瞬間、レアライトロードはあわてて久に話しかけた。

レアライトロード「久、ＩＤＸを探すよ！」

久「ＩＤＸ！？それなんだよ？」

レアライトロード「あの人は図書館（ライブラリ）、いろいろな世界のいろいろな本を、本のコードを思い浮かべるだけで取り出せる。そして、機密情報も保管してるんだよ。そのうちの１つが１０体のＩＤＸなんだよ。」

久「・・・行くか！」

レアライトロード「そうそう、ＩＤＸの情報が書かれた本をライブラリが持ってるからその本のコードを探してみるといいよ。」

？？？「それじゃ、本探しは私が行くね。」

突然久に話しかけた人。それは・・・

久「由衣！」

物上由衣だ。

由衣「それじゃ、行って来るね～。」

こうして由衣がＩＤＸの本のコードを探し、久とレアライトロードがＩＤＸ本体を探すことになった。

久「しかしまだあいつは俺の彼女気取りなのか？」

レアライトロード「その話今度聞いてみたいです。」

・・・・・とそこに何かが現れた。

久「おい、あれ『ＩＤＸ－０２』って書いてあるけどあれがＩＤＸ？」

それは何か怪しい秘密を持ってそうなロボットだった。

久「こいつどうやって止めるの？」

レアライトロード「わからない。」

えーーー。そんなのありかよ。久は心の中で叫んだ。

レアライトロード「たぶんライブラリの本に何か書いてあると思う

けど？」

さらに、このＩＤＸには怪しい５桁の数字が書いてある。

久「何この［１０８０８］って？」

レアライトロード「それはライブラリコードだ！それをライブラリに想像させると本が出てくるんだよ。」

久はライブラリを見つけてきた。

久「ライブラリをどうするんだ？」

レアライトロード「ライブラリ、想像しなさい。［１０８０８］、［１０８０８］、［１０８０８］・・・。」

するとライブラリから本が出てきた。タイトルは『ＩＤＸ－０２』。

久「えー、読んでみるぞ。『ＩＤＸ－０２とは、実験に成功したＩＤＸ－０１に改良を加えて開発した２体目のＩＤＸ。これの開発後、ＩＤＸの需要は急増し・・・』ってどこにも止める方法は書いてないじゃないか。・・・あれ？こんなところに鍵が。」

レアライトロード「きっとそれを使ってＩＤＸを止めるんだよ！ほら、ここに鍵穴っぽいものがある。」

久はその鍵穴に鍵をさしてみた。

ＩＤＸは消え、ライブラリに戻っていった。

久「こうやって消すのか、レアライトロード、どんどん消していくぞ！」

レアライトロード「はい！」

ＩＤＸを消しに向かう久とレアライトロードの前に、怪しい男達が現れた。

久「こんなところでＹＡＫＵＺＡ♪に会ってしまったか・・・。」

レアライトロード「ＹＡＫＵＺＡ♪ってヤクザのことですか？なんで♪なんてつけてるんですか？」

ＹＡＫＵＺＡ♪１「オラァ、いつもの小僧じゃねーか。今日こそおもいっきり殺るぞー！」

ＹＡＫＵＺＡ♪全員「おぉーーーーー！！！！！」

久「ああ、俺はとことん不運だな。」

ＹＡＫＵＺＡ♪に会ってしまった久達。どうなってしまうのか！？

続く

ライブラリ（後書き）

次回、ＩＤＸの正体が明らかに！！

インターナショナルダイナマイト（前書き）

外辺久の不幸っぷりは今はこのレベルですが、そのうちすごいことになるかもしれませんよ・・・・・。

インターナショナルダイナマイト

久「どうしよう・・・。」

レアライトロード「そうだ、私の力を使おう！こうなったら3割を信じるしかないよ！」

久「・・・・・わかった。指示してくれ。」

レアライトロード「左から4番目と5番目の間を抜けて！」

久「ええぇ、どうにでもなれ！」

久は力いっぱい4番目と5番目の間に飛び込んで行った。その時、4番目と5番目が動いたせいで、ＹＡＫＵＺＡ♪全員がドミノ倒し状態になった。

久「今だ、レアライトロード、行くぞ。」

何回もＹＡＫＵＺＡ♪に追われたことがあったため、逃げ足の早い久になんとかついて行こうとするレアライトロードだった・・・。ＹＡＫＵＺＡ♪たちは一番上がなかなか動かないため他の人も下敷き状態で動けなかった。

どうにかなった2人はいきなり走って、疲れて、休んでいた。

そこに由衣が現れた。

由衣「そういえばＩＤＸの本ってどうやって探すの？」

久「その必要はない。ＩＤＸ本体を見つければライブラリコードがわかることがわかったからね。」

由衣「・・・・・・・・」

どっかへ行こうとした由衣をレアライトロードが止める。

レアライトロード「ちょっと待ってよ。一緒にＩＤＸを探そう。うまく見つけられるって！久の不運を和らげるためにもね。」

久「ちょっとそれどういう意味だよ。」

とかいいながらもみんな笑っていた。

その頃、道の世界、謎の集団指令室

???「あれを・・・インターナショナルダイナマイトXを五武山市に送り込んだとか・・・。」

???「その通りだよ。しかし、五武山市にはライブラリがいてね、1体行動を止められてしまったんだよ。」

???「ライブラリをこちらに連れてくる必要はありますか?」

???「その必要はないだろう。IDXを使えば地球は吹っ飛ぶからな。」

???「そういえば、地球を吹っ飛ばしてどうするのですか?」

???「地球人達を殺しては意味がない。奴らの科学力でROAD術を向上させるんだ。IDXは地球人を呼ぶための脅しでしかないが、威力は本物だ。」

???「全てはあの狂ったROAD術師のおかげだからな・・・。奴の妹、確かレアライトロードと言ったか。奴は現在、ある地球人にROAD術を使用している。その地球人をどうするか・・・。」

五武山市

レアライトロード「ちょっと、私のお兄ちゃんの話聞いてくれる？」

久「聞いてみたいな。どんな兄ちゃんなんだ？」

レアライトロード「２人のお兄ちゃん。上のお兄ちゃんはローディングロード、下のお兄ちゃんはロストロードというの。そして・・・」

以下回想シーン

ロストロード「やった、夢が叶った！ＩＤＸが完成したんだよ！」

ローディングロード「それはどんなものなんだ？」

ロストロード「地球まるごと破壊爆弾、１０体同時に爆発させれば地球は全て吹っ飛ぶさ。こいつは俺の導くＲＯＡＤ術によって示された道しるべのもとに作ったんだ。俺のＲＯＡＤ術のパワーを証明したんだ！」

ローディングロード「そんな危険なもの作って大丈夫なのか？」

その時だった。

警察「動くな！ロストロードはどこだ！？」

ロストロード「ロストロードは俺だ。」

警察「残念ながら君が作ったＩＤＸは危険物と判断し、撤去させてもらうよ。」

ローディングロード「・・・・・」

ロストロード「おい、どういうことだよ!?」

ロストロードの文句も聞かず、警察は１０体のＩＤＸを持って去っていった。

しかし、警察はＩＤＸの輸送中、何者かに襲われた。どうやらロストロードではないらしい。

警察を襲った者はそれぞれのＩＤＸにライブラリコードを付け、ライブラリに封印した。

レアライトロード「こんな話なんだよ。」

久「今はその兄ちゃん達は道の世界にいるのか?」

レアライトロード「わからない。でもいると思うの。道の世界のどこか・・・、きっとどこかに潜んでいると思うの。」

久「しかしどうしてライブラリに封印されたＩＤＸがどうして出てきたんだ？」

レアライトロード「きっとライブラリが知っていると思うよ。私は聞かなかったけどね。予想としては何か裏に組織が隠れているんだよ。」

久「でもなんであれＩＤＸを再びライブラリに封印すればいいんだろ？じゃあそうしようよ。それが一番良い。」

レアライトロード「そうだね。それじゃ、探そうか。」

続く

インターナショナルダイナマイト（後書き）

そうそう、ちなみに不運と不幸の区別は特にありません。気分で出てきた方を使っています。

ロストロードが現れた。

事は順調に進んでいた。すでに残るＩＤＸは１体というところまでライブラリに戻していた。

久「次が最後の１体、Ｎｏ．８だな。」

レアライトロード「Ｎｏ．８・・・。」

久「Ｎｏ．８がどうかしたのか？」

レアライトロード「Ｎｏ．８はね、いろいろなシステムをたくさん組み込んだって言ってた。『このＮｏ．８さえあれば何でもできる』って言ってたくらいだよ。」

そのＮｏ．８がいないということがどれだけまずいことかは久も理解した。

レアライトロード「ライブラリの履歴でも使ってみようかな。」

久「ライブラリに履歴なんてあるのか？」

レアライトロード「ライブラリには直近１０冊分のライブラリコードが記録されていて、新しい本を読み込むと古いのは消えるんだ。」

そういって、レアライトロードはライブラリの履歴を確認した。

ＩＤＸＮｏ．１　２７５９４

ＩＤＸＮｏ．２　１０８０８
ＩＤＸＮｏ．３　８８３０５
ＩＤＸＮｏ．４　１４８６２
ＩＤＸＮｏ．５　６３７０３
ＩＤＸＮｏ．６　５２７６８
ＩＤＸＮｏ．７　３５７３９
ＩＤＸＮｏ．９　５３１６８
ＩＤＸＮｏ．１０　２４１８７
ＩＤＸ平均の書　４３７６８

久「おい、この『ＩＤＸ平均の書』ってなんだよ。」

レアライトロード「ちょっと読んでみる。」

レアライトロードは「ＩＤＸ平均の書」を取り出した。

レアライトロード「ＩＤＸはライブラリによって封印された。いざという時のため、ＩＤＸに関する書物を残した。そのライブラリコードの平均は４３７６８である。」

久「ってことはＮｏ．８のライブラリコードは計算で求められるってことか！」

ただ久は暗算は得意ではない。あいにく電卓も持ち合わせてなかった。

久「しょうがねぇ、家から電卓取ってくる！」

久は電卓を取りに帰ってった。

レアライトロード「さすがにこの計算は暗算じゃ無理か～。そう言えばライブラリ、ＩＤＸＮｏ．８のライブラリコードは覚えてないの？」

ライブラリ「勝手に本を引き出されないように、私はライブラリコードを覚えられない仕組みになっているそうです。」

レアライトロード「そもそも約１００万冊も保管してるんだから全てを記憶するなんて神レベルの話だよね。」

ライブラリ「正しくは１０２万５０７０冊です。」

レアライトロード「一体本の保管はどういうシステムになってるの？」

ライブラリ「データを血管に流すんですよ。そして脳がライブラリコードを想像するとデータが脳に送られ、実物化するのです。」

レアライトロード「複雑だねぇ。・・・・・あっ久戻って来た！」

久「よし！計算するぞ。・・・・・・・・出た！［６６５４６］だ！」

レアライトロード「ライブラリ、想像しなさい。［６６５４６］［６６５４６］［６６５４６］・・・・・。」

ライブラリからＩＤＸＮｏ．８の本が出てきた。

久「えーっと、ＩＤＸＮｏ．８はこれ1体だけで全世界を破壊する能力を持つ。また、非常に高い防御力を持つため、他のＩＤＸはダ

ミーである可能性もあったが、研究の結果可能性は否定された。ＩＤＸが処分されずにライブラリに封印という形をとっているのもＮｏ．８の処分方法がわからないのが原因である。」

レアライトロード「久、ここ見て。これは非常に危険なため、付属のスイッチを押せば封印されるって書いてあるよ！」

久「だったら全部そうしてくれればよかったのにな。そんじゃ、せーの！」

ポチッ・・・・・・となる手前、何者かがスイッチを撃ってきた。

久「何者だ！」

レアライトロード「あっ・・・・。」

ロストロード「気づいたか、俺だよ、ロストロードだよ。」

久「お前か、ＩＤＸを作ったのは。」

ロストロード「いかにも。」

久「ふざけんなぁーーー！！」

続く

早めの終わり。いや、終わりじゃない！（前書き）

第1章が終わっちゃったりする。

早めの終わり。いや、終わりじゃない！

久がロストロードを殴りにかかる。しかし、普通によけられてしまった。

久「くそぅ・・・。」

ロストロード「俺の勝ちだ。」

そう思った瞬間の出来事だった。突然何かがライブラリの中に入っていったのだ。

久「一体何があったんだ・・・。」

ライブラリ「それはスイッチの誤作動だね。」

ロストロード「俺が誤作動なんかに負ける訳ないだろ！」

久「いや、お前は負けたんだよ。」

久「意外と早く終わったな。」

レアライトロード「久！まだ第1章だよ！まだ終わりじゃないよ！」

久「すまんすまん・・・・・ってんあああああああああーーーーーーーーー！！！！！！！！」

そこに現れたのはＹＡＫＵＺＡ♪だった。

ＹＡＫＵＺＡ♪「殺るぞぉぉぉぉぉーーーーーーーー！！！！！！！！」

久「助けてくれえええええ！」

レアライトロード「運が悪くて久だよね。やっぱり。」

久「それより早く助かる道教えろーーーーーーー！！！！」

レアライトロード「そこ左に曲がって！」

久が進んだ先にはまたＹＡＫＵＺＡ♪がいた。

久「こんなんばっかーーーー。」

第1章は終わっても、久の不幸体質が終わりを告げることは無いだろう。

続く

早めの終わり。いや、終わりじゃない！（後書き）

第2賞もお楽しみに！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8288x/

疫病神☆

2011年11月11日02時48分発行